

平成 22 年 第 2 回定例道議会報告

北海道議会議員 北 口 雄 幸

- 【所属会派】 民主党・道民連合
 【会派役員】 政策審議会メンバー
 【所属委員会】 総合政策委員会理事、食と観光対策特別委員会委員
 【党活動】 民主党北海道第 6 区総支部副代表、民主党北海道第 6 区総支部土別ブロック支部代表
 【日 程】 平成 22 年 6 月 8 日（火）～6 月 25 日（金）18 日間

【一般質問】 わが会派からは、代表格質問に長尾信秀議員（北斗市）が登壇し、「北海道モデル」、地方分権課題、経済・雇用対策、地域交通対策、教育行政のあり方等について質疑を行った。

また、一般質問には、梶谷大志議員（札幌市清田区）、田島央一議員（宗谷支庁）、中山智康議員（伊達市）、広田まゆみ議員（札幌市白石区）、高橋亨議員（函館市）、三井あき子議員（旭川市）、福原賢孝議員（檜山支庁）の 7 議員が立ち、当面する道政課題、地域課題について道の取り組みを質した。

なお、私・北口雄幸は、予算特別委員会において、「エゾシカ対策」について質疑を行った。なお、質問等の詳細は別紙のとおり。

【主な審議経過】 高橋知事は、わが会派の代表格質問が行われた 14 日から 17 日まで、体調不良を理由にして本会議を欠席した。この間の本会議での答弁は、3 人の副知事が代行。このため、会派代表格質問では、知事の政治姿勢に関わる質問の一部を見送るなどの混乱が生じた。知事は、予算特別委員会最終日の知事総括質疑から復帰した。

宮崎県で大流行し、地域に大きな打撃を与えている、口蹄疫の道内への侵入防止対策や、獣医師等の同県への緊急派遣などの経費を組み込んだ補正予算案が 17 日に追加提案・先議された。先議には、わが会派からは稲村久男議員（空知支庁）が立ち、口蹄疫の侵入防止策、観光等での人の交流への対策、獣医師等の体制整備等について質疑を行った。

提案された 22 年度道補正予算は、一般会計 27 億 8 千万円。口蹄疫緊急防疫対策費 3 億 5 千万円、社会資本整備総合交付金の配分額決定に伴う投資単独事業費の追加 32 億 6,500 万円、大量の不正コピー発覚に伴うソフトウェアのライセンス取得費の追加 1 億 6,500 万円などが内容。これにより、22 年度道予算の規模は、一般会計 2 兆 8,218 億 7,700 万円、特別会計 6,585 億 2 千万円の合計 3 兆 4,803 億 9,700 万円となった。

【補正予算】

単位：千円

	一般会計	特別会計	合計
当初予算	2,818,096,350	658,519,687	3,476,616,037
今回補正額	3,430,624	0	3,430,624
追加補正額	350,026	0	350,026
合計	2,821,877,000	658,519,687	3,480,396,687

補正予算の主なもの【(新)は新規事業】

3,265,450 千円……単独投資事業費（道路・街路等 3,224,150 千円、河川等 41,300 千円）

165,174 千円……ソフトウェアライセンス取得費（8,221 本）

350,026 千円 口蹄疫緊急防疫対策（侵入防止対策 164,851 千円、備蓄防疫資材緊急整備 122,564 千円、宮崎県への派遣経費 56,652 千円、野生動物侵入防止対策 5,959 千円）

【総合政策委員会】私・北口雄幸は、6 月 1 日に「19 年度道民経済計算年報の公表について」質疑した。

【採択された決議・意見書】（◎は政審発議、○は委員会発議、●は自民会派発議・民主会派反対）

- ◎地方財政の充実・強化を求める意見書
- ◎B 型肝炎問題の早期全面解決を求める意見書
- ◎外国資本等による土地売買等に関する法整備を求める意見書
- ◎一般国道の維持管理の充実を求める意見書
- 精神障がい者に公共交通機関の運賃割引制度適用を求める意見書
- 重症心身障がい児（者）への支援に関する意見書
- 口蹄疫など家畜の感染症に対する備えを万全にするよう求める意見書
- 森林・林業政策の早急かつ確実な推進に関する意見書
- 道路の整備に関する意見書
- 義務教育の機会均等の確保と教育予算の確保・拡充を求める意見書
- 小林千代美衆議院議員の議員辞職を求める決議
- 荒井聰衆議院議員の事務所経費疑惑に関する真相解明と説明責任を果たすよう求める決議
- ※「小林千代美衆議院議員の議員辞職を求める決議」、「荒井聰衆議院議員の事務所経費疑惑に関する真相解明と説明責任を果たすよう求める決議」の 2 件は、自民会派が、提出した。民主会派は、その内容、手続きが妥当性を欠き、党利党略を地方議会の場に持ち込むものであるとして反対した。

【当面する課題と会派の対応】

(1) いわゆる「北海道モデル」について

知事は、5 月 19 日に記者会見で、六分野で構成された「北海道モデルの展開」を公表した。「北海道モデル」は、知事が、政権交代後の昨年秋に記者会見で言及、第 1 回定例会での道政執行方針の中で「食や観光、環境・エネルギーなどに関する新たな取り組みを“北海道モデル”として発信する」と述べてきた。

知事の任期最終年度の途中で、こうした道政執行の方向性を大きく左右するような施策の展開手法が打ち出されたことに対して、本会議、予算特別委員会を通じて、策定のあり方、政策展開の優先性、道の長期計画や知事公約の中での位置付け、今年度予算執行との関係、国への提案に際しての構造改革特区や道州制特区との関係などについて質問したが、いずれも明確に説明する答弁ではなかった。

さらに、論議過程の 15 日になって、障がい者の地域生活支援が、七つめの分野として追加されるなど、庁内でのプラン検討体制のあり方そのものに疑問が生じるような対応になっており、知事の思い付き、知事の選挙宣伝で終わってしまうことがないよう、今後も論議を進める必要がある。

【広報等】

*道政報告「ゆうこう便り」の発行 2010 年 7 月（夏号）22 号

*ホームページの開設 2007 年 7 月開設、ブログは毎日更新中 <http://y-kitaguchi.net/>